

ジャズ読本2009

Battle × Jazz

バトル×ジャズ

特集1: 魅せます。史上最大の競演。

①ジャイアンツ編: マイルス・デイビス×ジョン・コルトレーン ●ビル・エバンス×オスカー・ピーターソン ●チャーリー・パーカー×ディジー・ガレスピー ●キース×ハービー×チック×ザビヌル ●エラ・フィッツジェラルド×サラ・ボーン ②名盤編: サキソフォン・コロッセアス×「バラード」 ●「バードランドの夜」×「ビレッジ・バンガードの夜」 ●「ミーツ・ザ・リズム・セクション」×「ing四部作」 ●「カインド・オブ・ブルー」×「インプレッションズ」 ●「アット・ベイズン・ストリート」×「スタンダード・タイム Vol.2」 ●「バード&デイズ」×「ヘビー・メタル・ビバップ」 ●「ブルー・トレイン」×「スリー・ブラインド・マイス」 ●「セロニアス・ヒムセルフ」×「ソロ!!」 ●「ファースト・タイム」ベイスン楽団×エリントン楽団 ●「イン・コンサート」チック・コリア×ハービー・ハンコック ③レーベル編: ブルーノート×コンテンポラリー ●リバーサイド×プレスティッジ ●キャピトル×デッカ ●RCA×コロンビア ●ブルーノート×ヴァーヴ ④エピソード編: ソニー・ロリンズ×ジョン・コルトレーン ●ジェリー・マリガン×チャット・ベイカー ●ウイントン・ケリー×ビル・エバンス ●ホレス・シルバー×アート・ブレイキー ●クリフォード・ブラウン×マイルス・デイビス ●レスター・ヤング×コールマン・ホーキンス ●スタン・ゲッツ×ジョアン・ジルベルト ⑤2008編: チック・コリア×上原ひろみ ●レナート・セラニ×ダニーロ・レア ●エリク・アレキサンダー×グラント・スチュワート ●アマンダ・ブレッカー×フレドリカ・スタール ●カレル・ボエリー×マーク・バン・ローン ●秋吉敏子×ウイントン・マルサリス ●シェリル・ベントーン×ダイアン・リプス ●ウンサン×スーザン・ウォン ●牧山純子×レジーナ・カーター ●ビッグ・ファット・バンド×マリア・シュナイダー ●オーケストラ・MJQ×MJQ ●モダン・ジャズ・カルテット×マンハッタン・ジャズ・クインテット ●SHM-CD×HQCD ⑥ライブ編: 全国人気ジャズ・スポット徹底リサーチ

特集2: 復刻盤探訪・総集編 / 特集3: 今年注目の輸入盤をチェック! / 2008ジャズ・データバンク



2008年ジャズ・コンポーネント・アワード決定

第20回ジャズ・コンポーネント・アワード受賞作決定!!

●趣旨 ソフト／ハードの両面をスタンズとするスイングジャーナル誌では、他の音楽にはないジャズ固有のサウンドを、文字どおり“ジャズ・サウンド”として、40



ますが、SACDプレイヤーが多数登場し、高音質化への機運が一層高まっていることが印象的です。その一方で趣味性の高いアナログ・プレイヤーや

年近くの長きにわたって提唱してまいりました。おかげさまで、“ジャズ・オーディオ”という言葉まで生まれ、ジャズ・ファンの音にこだわるマニアぶりや、音に関心の高いファン気質となって広まってまいりました。その熱きエモーションを限りなく広げてくれる、個性豊かで夢のあるオーディオ／AVの発展に貢献したいという願いを込めてスタートしたのが「スイングジャーナル・ジャズ・コンポーネント・アワード」です。●国内オーディオ分野ではまず、各分野でそれぞれの意欲作が登場、特にSACDプレイヤーの高級機やセパレート・アンプはしのぎを削っています。海外オーディオ製品では、やはり多彩なスピーカー分野が最も目を引き

カートリッジの人気も相変わらずです。これに対しビジュアル分野では、放送のデジタル・ハイビジョン化に伴うディスプレイやプレイヤー／レコーダーの次世代規格への対応が一段と進み、デジタル放送対応のパネル型テレビ、BDプレイヤー／レコーダーが一般的になっています。

●第20回を迎えた本年も、ジャズ・サウンド／ビジュアルのベスト・コンボとして、〈クオリティ〉、〈ファンクション〉、〈コストメティック・デザイン〉といったポイントに重点をおき選考を行いました。候補製品は、メーカー／輸入各社のノミネートに編集部推薦の若干点を加えたもので、これをもとに9名の選考委員の投票により各賞が決定いたしました。

選考委員(50音順) 石田善之／上杉佳郎／加藤しげき／篠田寛一／高津修
藤岡誠／藤原陽祐／細谷信二／本誌・藤井雄浩

SwingJournal

JAZZ Component Award 2008



2008年度 第20回ジャズ・コンポーネント・アワード

◆受賞作一覧◆

THE TOP JAZZ COMPONENT

※表記している価格は全て税込です。

AUDIO	デノン DCD-SX (オーディオ・プレイヤー)	¥840,000
	ジンガリ TWENTY 1.12 (スピーカー)	¥1,365,000
VISUAL	パイオニア KRP-500A (プラズマ・テレビ)	¥670,000

国内オーディオ部門

オーディオ・プレイヤー20万円未満	マランツ SA-15S2	¥157,500
オーディオ・プレイヤー20万円以上	デノン DCD-SX	¥840,000
プリメイン・アンプ20万円未満	マランツ PM8003	¥94,500
	CEC AMP5300R	¥123,900
プリメイン・アンプ20万円以上	デノン PMA-SX	¥787,500
セパレート・アンプ	アキュフェーズ M-6000 (モノラル・パワーアンプ)	¥892,500
スピーカー10万円未満	ビクター SX-M3	¥99,750
	パイオニア S-4EX	¥231,000
スピーカー10万円以上	ビクター SX-M7	¥315,000

特別賞・Special Award for Audio Engineering

デジタルドメイン: B-1a (パワーアンプ) / D-1a (D/Aコンバーター)	¥1,050,000 / ¥1,575,000
--	-------------------------

海外オーディオ部門

オーディオ・プレイヤー	マークレビンソン No.512	¥2,205,000
プリメイン・アンプ	マッキントッシュ MA7000	¥924,000
	オクターブ V80	¥1,344,000
セパレート・アンプ	マークレビンソン No.532	¥2,940,000
スピーカー10万円未満	JBL 4307	¥79,800
スピーカー10万円以上~20万円未満	Bowers & Wilkins CM9	¥184,000
スピーカー20万円以上~40万円未満	フォーカル Electra1007S	¥252,000
スピーカー40万円以上~100万円未満	ダリ HELICON400MK2 LE	¥450,000
→ スピーカー100万円以上	ジンガリ TWENTY 1.12	¥1,365,000

ビジュアル部門

ビデオ・プレイヤー/レコーダー	デノン DVD-3800BD (BDプレイヤー)	¥336,000
テレビ/プロジェクター	パイオニア KRP-500A (プラズマ・テレビ)	¥670,000
AVアンプ20万円未満	パイオニア VSA-LX51	¥150,000
AVアンプ20万円以上	ソニー TA-DA5400ES	¥262,500
ホームシアター・システム	ボーズ 3・2・GSX SeriesⅢ	¥199,500
ビデオ・レコーディング・メディア	TDK Life on Recordブランド BRV50C1S (BD-R DL)	オープン価格

アナログ/ノン・カテゴリ部門

コーディネイト・システム10万円未満	ケンウッド CORE-A55	オープン価格
コーディネイト・システム10万円以上	オンキヨー CR-D2/D-112EX	合計¥110,250
アナログ・コンポーネント	アコースティックソリッド Solid Classic Wood System	¥367,500
ノン・カテゴリ/コンポーネント	アキュフェーズ DG-48 (デジタル・ヴォイシング・イコライザー)	¥787,500
ノン・カテゴリ/アクセサリ	オーディオテクニカ ATH-A2000X (ヘッドフォン)	¥78,750



The TOP Jazz Component

Visual



**The Best Overseas
Component :
Speaker System
for Jazz Sound**

スピーカーシステム

ジンガリ TWENTY 1.12

¥1,365,000(税込)

1986年に創立されたイタリアのジンガリ・ラウドスピーカー社。コンプレッションドライバを用いたホーン・システムに傾倒していた創業者である現社長ジュセッペ・ジンガリ氏は、今日の同社の技術の核となる“Omniray Technology”を1995年に開発。コンプレッションドライバと長いスロートを持つコニカル形状のホーンを組合せたこの独自のホーン・ユニットは、140°と広い指向特性と平坦な周波数特性を特長とする。今日の同社の中核ラインナップであるTWENTYシリーズは、ウーハーとホーンの開口径を一致させることで音のつながりに配慮し、位相特性を重視したネットワークと相俟って一体感のある再現を追求している。またホーンとバッフルには音響的に優れたイエローポプラ材を採用している。受賞した1.12は32cm(12インチ)口径のウーハーと同口径のオムニレイホーンの2ウェイ。シリーズには32cmウーハーをダブルで搭載する2.12、8インチ・ウーハーをダブルで搭載する2.08、6インチ・ウーハーをダブルで搭載する2.06がある。(P.316参照)

JAZZ COMPONENT



投票結果及び各選考委員選考後記

国内オーディオ部門に比べ圧倒的にバラエティに富んだ製品が展開される海外オーディオ機器。設計者の意図を色濃く反映したコスメティック・デザインやサウンドは、選択する楽しさと難しさを伴う。そんな海外製のオーディオ・プレイヤーでは、ベストに選ばれたマークレビンソンNo.512をはじめ、高価ではあるがSACDプレイヤーがかなり登場してきている。プリメイン・アンプでも受賞したのは高額機ではあるが、それはやはり独自の魅力が評価されたからだろう。スピーカー・システムは昨年同様5つの価格帯に分けて選考しているが、それは海外製スピーカーの多様性の証でもある。受賞したのは常連ともいえるJBL、B&W、フォーカル、ダリ、そして久々登場のイタリア・ブランド ジンガリである。

THE BEST JAZZ COMPONENT

海外オーディオ・プレイヤー		石田	上杉	篠田	藤岡	細谷	藤井	合計
マッキントッシュMCD301 (SACDプレイヤー)	¥693,000	4	1	1	3	3	3	15
Wadia 581se (SACDプレイヤー)	¥1,680,000		2	3		4	4	13
マークレビンソンNo.512 (SACDプレイヤー)	¥2,205,000	5	5	5	5	5	5	30

※上位3位までの製品を表示します。

海外プリメイン・アンプ		石田	上杉	篠田	藤岡	細谷	藤井	合計
ユニゾンリサーチP40	¥525,000	4	3	5	3	4	3	22
マッキントッシュMA7000	¥924,000	5	5	3	4	3	5	25
オクターブV80	¥1,344,000	3	4	4	5	5	4	25

※上位3位までの製品を表示します。

海外セパレート・アンプ		石田	上杉	篠田	藤岡	細谷	藤井	合計
ニューフォースP-9/Reference9 V2SE (プリアンプ/パワーアンプ)	¥472,500/¥367,500×2	1	1	1	1	3	4	11
オクターブJubilee (プリアンプ)	¥4,725,000	3		3	5			11
マークレビンソンNo.532 (パワーアンプ)	¥2,940,000	5	3	4		5	5	22
マークレビンソンNo.53 (モノラル・パワーアンプ)	¥3,780,000	2	5		2		2	11

※上位3位までの製品を表示します。

海外スピーカー 10万円未満		石田	上杉	篠田	藤岡	細谷	藤井	合計
JBL 4312MII (WX/BK)	ベア ¥79,800/¥69,800	4	4	2	4	1	3	18
JBL 4307	¥79,800	3	2	5	5	5	5	25
B&W CM5	ベア ¥160,000	5	3	4	3	4	2	21

※上位3位までの製品を表示します。

海外スピーカー 10万円以上～20万円未満		石田	上杉	篠田	藤岡	細谷	藤井	合計
オルトフォンKailas7	¥115,500	5			5	1	3	14
QUAD 22L2	¥147,000	3	5	5		2	4	19
B&W CM9	¥184,000	4	3	4	3	5	5	24

※上位3位までの製品を表示します。

AWARD 2008

海外オーディオ部門

海外スピーカー 20万円以上～40万円未満

		石田	上杉	篠田	藤岡	細谷	藤井	合計
ウイーンアコースティックT-3GB	ペア ¥493,500	3	4	1	2	1	4	15
フォーカルElectra 1007s	¥252,000	4	5	4	3	4	5	25
JBL TS6000	¥378,000	2	3	5	5	5	3	23

※上位3位までの製品を表示します。

海外スピーカー 40万円以上～100万円未満

		石田	上杉	篠田	藤岡	細谷	藤井	合計
JBL TS8000	¥441,000	2	4	4	3	4	2	19
ダリ HELICON 400MK2LE	¥450,000	5	5	5	4	5	5	29
ビエガTC30X	ペア ¥1,344,000	3	1	3	5	3	4	19

※上位3位までの製品を表示します。

海外スピーカー 100万円以上

		石田	上杉	篠田	藤岡	細谷	藤井	合計
ジンガリTWENTY1.12	¥1,365,000	5	4	3	4	5	5	26
バス・ラボラトリーズSR-1	¥1,732,500	3	5	5		3	2	18
ビエガ CL120X	ペア ¥4,725,000	4	1	4	5	2	4	20

※上位3位までの製品を表示します。

アメリカ、イギリス、ドイツなどの欧米諸国に加え南アフリカや東欧圏、アジア圏からの製品も加わりさらに多様になった——石田善之

海外オーディオ部門はノミネートされる製品数も国内部門よりもかなり多いし、新たに海外から紹介されるブランドはますます増える傾向にある。東京で開催されたインターナショナルオーディオショウやハイエンドショウでも強い印象をもたらした。

これまではアメリカに始まり、イギリス、ドイツ、イタリア、フランスそしてスカンジナビア諸国という欧米が中心だったが、今や南アフリカやイスラエル、そして東欧圏であったブルガリア、近い外国の中国などから、国内や欧米の製品とは一味異なった、趣味性の高さを感じさせるブランドが加わっている。

もともと、前評判で盛り上がりとか、記念モデルとして大々的にキャンペーンが打たれるという派手さはなかったようだが、総じて活発であった。

デジタルのオーディオ・プレイヤー部門ではSACD対応ということからすると、圧倒的に国内製品が強いようだが、それぞれのブランドのアイデンティティや電源、アナログ回路に独自の伝統手法を加えるなどしたSACD対応プレイヤーも加わりつつある。

また、プリメイン・アンプは50万円を越えるような高額機

が中心で、それぞれがサウンド的な魅力を聴かせ、ブランドのポリシーを感じさせる。そうしたなかでの傾向だが、管球式が少々目立っているようだ。なかでもオクターブは伝統的な管球回路から離れ、独自の回路で、デバイスとしての真空管の活用により音質が追求され、あくまでもそのグレードで勝負しようという姿勢を感じさせる。セパレート・アンプのノミネートには、かなり大型のリファレンス・クラスの製品も含まれていて興味をそえられるが、採点する側にとって、難しい判断を迫られるジャンルであった。マークレビンソンからは、久々の伝統手法によるデュアル・モノと、新技術を駆使したデジタル出力段階を持つモノラル型の2機種のノミネートだったが、迷った末の判断である。

スピーカー部門は5つの価格帯に分けられているが、それぞれに多くの製品がノミネートされ、しかも魅力度の高い製品が多かった。10万円未満であっても、各ブランドの魅力をも感じさせる個性的な製品が多かった。

20万円未満も同様だが、ここではもう一回り大きくしたトールボーイ型が中心になったようで、10万円を挟んで大型小型それぞれC/Pの高さを感じさせる。また、40万円以上や100万円以上の高額機で感じさせるのは、お国柄ということであろうか、ユニットの方式もさることながら、エンクロージャーのスタイルや素材、そして色や仕上げなど多岐にわたり、興味深い。

日頃から言い続けていることだが、スピーカーは音を出していない時間でも大きな存在性を持って部屋のな



The Best Overseas Component Speaker

オーバースィーズ・コンポ・スピーカー 100万円以上

ジンガリTWENTY 1.12

¥1,365,000(税込)



●主要規格 型式:2ウェイ2スピーカー・バスレフ型、使用ユニット:32cmコーン型ウーハー、44mmコンプレッションドライバー+12インチOmniRay GZホーン、周波数特性:35Hz~21kHz±3dB、出力音圧レベル:97dB/2.83V(1m)、定格インピーダンス:8Ω、クロスオーバー周波数:800Hz、パワーハンドリング:400W、外形寸法:360×1140×550(WHD)mm、質量:55kg
●問い合わせ先:株式会社ロッキー インターナショナル 〒116-0014 東京都荒川区東日暮里1-27-13 ☎03-5850-6960 ホームページ=<http://www.rocky-international.co.jp/>

独自のOmniray Technologyに基づくホーン型2ウェイ・システム、美しい仕上げとその 奥行きと張り出しを感じさせるサウンドは、ジャズのボーカルやアドリブを生々しく聴かせる

ジンガリのスピーカーは、ホーンを持つシステムとして近年では比較的小巧な製品が紹介されているが、今年からより本格的に日本の市場に参入した。

TWENTY 1.12は創立20周年を記念したモデルで、12インチ(30cm)のウーハーを1つ持つ、ということの意味する型番がつけられている。

特徴はホーンを持つシステムであることだが、そのホーンの開口部とウーハーの開口部をほぼ同一サイズとし、独自のイタリア的美学でまとめ上げられた美しいツクリと高度な木工精度を感じさせる。

ホーンの素材やウーハーの外周部の素材は北アメリカの西海岸側に育つイエローポプラで、硬からず柔らかからずの程よい剛性と内部損失を持つという。日本ではホウノキに近い木材ということである。

その木肌の美しさ、加工性の良さがジンガリのホーンの特徴となっているのである。このホーンを駆動するドライバーはチタン・ダイヤフラムで、直径44mmだが、圧縮比は程よく高められ、直接音をも放出するというJBLのコンプレッション・ドライバーとは少し考え方を変えた独自のホーン形であるといえる。

ジンガリのホーンの特徴は360度の円形放射パターンと、140度の広拡散角度を持つことで、深いスロートと浅いホーンで構成されている。Omniray Technology が用いられ、

ドライバーの製造も同じイタリアのトスカナにあるB&CスピーカーSPAとの共同開発による。

ウーハーもドライバーと同様にイタリア製で、30cmのパルプコーンだがボイスコイルの駆動径は100mmと大きく、クロスオーバーは800Hzの2ウェイ・システムで、能率が97dBと非常に高い。管球アンプでもラクラクとドライブしてくれるというシステムでもある。重量が55kg、イタリア製ならではの高度な木工技術が投入され背面にスリット型のバスレフ・ポートを持つ。ホーンの削り出しや加工、エンクロージャーの組み立てなど、すべて手作業で丹念に製作される。

サウンドは、ホーンの持ち味が活かされ音像を積極的に前に繰り出す。しかも十分な奥行きを聴かせるという、いわゆるステレオの広がりに対して奥行きと張り出しを感じさせる音像感が特徴で、ナマの音場が連想されるのもそうしたところに要素がありそうだ。

ホーン・システムだけに、ささやかな音も見事に再現され、それでいてクセのない伸びやかさがあり、特に中低域から低域にかけてしっかりと厚みがある。質感の高いエンクロージャーに支えられた豊かさが大きな特徴で、独自の音像感や音場感が本機の魅力と言えそうである。特にジャズ・サウンドとしてのボーカルやアドリブ・ソロなどは一歩前に踏み出し、音像は見事なものがある。(石田善之)

■輸入元からの一言

イタリア南部のアプリアの町に本社を置くジンガリ・スピーカー社は、創業者で現社長のジュゼッペ・ジンガリ氏の強い信念によって、コンプレッション・ドライバーを搭載したスピーカー・システムを主力製品として発展してきました。コンプレッション・ドライバーは高能率で優れたトランジェントやリニアリティの良さという特長を備えています。反面指向特性が狭い、鼻音効果と呼ばれる不快な再生音が生じる等の欠点も持っています。ジ

ンガリ社が特許を持つOmniray Technologyは全ての方向に音を放射する技術の意味で、欠点を克服しコンプレッション・ドライバー本来の特長に加えて開放的でより自然なサウンドを再生する画期的な技術です。ウーハーには伝統的なセルロース振動板を採用。絶妙なネットワーク設定で高い完成度を実現しています。デザインはイタリアのセンスの良さが活かされ、趣味の製品として不可欠な洗練されたフォルムです。

(株式会社ロッキー インターナショナル)